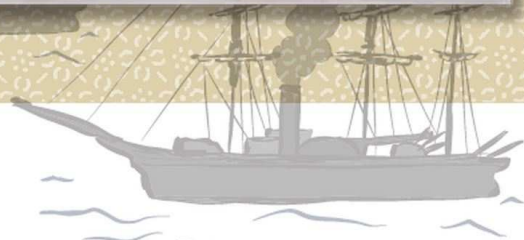




No. **40**  
2019

- 学長対談 / 佐賀大学OB、OG
- 特集 / 佐賀大学美術館開館5周年
- 特集 / 夢を掴んだ先輩たち
- イキイキ佐大生 / 医学部陸上競技部
- 研究紹介 / 学び手との対話による豊かな教科教育の構想
- 研究紹介 / 腰痛を軽減する装具の開発
- 活動紹介 / ライブラリースタッフおすすめ本展示
- 活動紹介 / 陶磁器・セラミックスを通じた地域貢献へ
- サークル紹介 ●お知らせ



# 本学卒業生が「いちごごさん」プロジェクトで活躍！！

7年かけて生まれた「いちごごさん」のキャッチフレーズは「眺めてうっとり、かじって甘い」。ブランドロゴは凜とした美しい女性、美味しさへの誇りと自信を表現。



左から宮脇広報室長、宮崎学長、西さん、木下さん、伊東さん、穴井教授



赤みが濃く糖度が高い「いちごごさん」



木下 剛仁さん

**宮脇広報室長** 2018年秋、佐賀県産いちごの20年ぶりの新品種として「いちごごさん」が誕生しました。その開発プロジェクトの一員として、本校農学部出身の3名がご尽力されていますが、みなさんの担当を教えてください。

**木下さん** 佐賀県農業試験研究センターに勤務しておりまして、いちごを担当して10数年。「いちごごさん」の品種改良を担当します。

平成8年佐賀大学農学部  
応用生物科学科卒業  
平成10年佐賀大学大学院農学研究科修士課程  
現在、佐賀県農業試験研究センター野菜花き部野菜研究担当に勤務(有種部門)。  
した。

**西さん** 卒業後に、木下さんと同じ農業試験研究センターの配属になり、い

ちごごを担当していました。現在は佐賀県園芸課に勤務し、「いちごごさん」の生産振興を担当しています。

**伊東さん** JAさがで野菜の栽培指導・振興をする部署に所属しています。当初はいちご以外のハウス野菜担当で、野菜全般の技術指導で唐津にも勤務していました。平成15年に本所に戻ってからはいちごの専門となり、「いちごごさん」の栽培技術の指導や販売促進支援を担当しています。

**宮崎学長** 「いちごごさん」はどこで作っているのが一番多いですか。

**伊東さん** 面積的には唐津が一番多いです。

**西さん** 一年目の栽培面積は県内で約18haとなっています。生産者は166戸で、「さがほのか」から「いちごごさん」に段階的に切り替えていきたいと考えています。

**宮崎学長** 「いちごごさん」は100%ハウス

栽培ということですが、環境モニターで栽培環境を確認していますか？

**伊東さん** まだなので、今後は設置をして色や食味品質・収量のバラつきをなくしていきたいです。166戸の生産者の栽培技術の水準を高め、品質を統一するのがこれからの課題です。

**宮崎学長** 品質の統一であれば、水耕栽培が合わせやすいのではないですか。

**伊東さん** 佐賀県ではいちごの水耕栽培の技術は確立しておらず、土耕栽培と高いベンチで栽培する高設栽培の2種類です。栽培の違いによって色のバラつきがでているのですが、ハウス内の環境を制御することによって、どのような栽培であっても、より良いものが作れる技術を確認したいです。

**宮崎学長** 太陽光でのハウス栽培のようですが、他県ではLED照明の水耕栽培でいちごを赤く育てる技術もあるそうですね。

**木下さん** 実は今、農業試験研究センターのなかでは、試験的にLED照明を使った栽培も研究しています。LED照明の補光により、色づきや生育の促進に効果があるのかどうかの検証を行っています。

**広報室長** 「いちごごさん」の研究や普及、栽培指導など、それぞれのご担当で苦労されたことや開発にまつわるエピソードを教えてください。

**木下さん** そもそもなぜ、新品種を開発することになったかというところ、いちご生産者の高齢化や、生産者数や作付面積の減少、また昨今は各県1品種くらいの勢いでどんどん新品種が出てきているのも背景にあります。それに加え、主力品種である「さがほの



か」の冬場の色づきが悪かったり、収穫量がやや少なかったり、いくつかの課題を解決する必要もありました。そこで、西さんがいる園芸課が音頭をとって、県一丸となって新品種の開発に取り組むことになりました。

**西さん** 新品種の開発については、佐賀県（研究、普及、生産振興、ブランドディング）、JAグループ佐賀（栽培指導、販売支援）、いちご生産者の三者でプロジェクトチームを結成。平成22年～平成28年の7か年計画で開発にあたりました。私の所属する園芸課は主にプロジェクトの進行管理や選抜会議の設定・取りまとめを担当しました。

**木下さん** これまでの品種改良では、ある程度の研究を重ねてから「これでいいだろう」という段階で生産現場に出していましたが、実際作ってみて「これではダメ」ということで振

り出しに戻ってしまうことも……。そのため、今回の「いちごさん」の開発では最初から生産のプロの方（篤農家）に入ってもらいました。そのおかげで効率的に新品種の育成ができたと思います。

**宮崎学長** どのような方法で新品種を開発したのですか。

**木下さん** 品種改良は、味や色が良いいちご同士を掛け合わせていくんですが、3年間に5000株ずつをチェックし、結果的に15000の試験株の中から選んだのが「いちごさん」です。とはいえ、生産や流通、販売側など、いろんな人たちの視点があるので、意見は十人十色だし、なかなか決まらなかつたというのが現状です。プロジェクトを進行していた西さんは、かなり苦労されたんじゃないでしょうか？

**西さん** 新品種の候補が沢山ある中で、選抜会議で意見が割れることもしばしば。それをまとめあげるのに正直、苦労しました。また、計画どおり7か年で新品種が出るのかどうか、内心ひやひやものでした。

**木下さん** 最終的な決め手になったのは、やはり生産者の声。実は伊東さんのご実家がいちご農家で、試験栽培にもご協力いただきました。

**伊東さん** 我が家はハウス栽培ですが、簡易的なパイハウスと暖房機を使わない（加温しない）昔ながらの栽培をしています。その中で「いちごさん」の色や味などのキラッと光る品質の良さに親父がいつの間にか惚れ込んでいました。

**木下さん** 絞り込み作業で苦労したのは味

見ですよ。食味の良し悪しは実際に食べてみないと分からないのですが、季節によって出来も違うし、「いちごさん」みたいに美味しいものばかりじゃない。約5万個の試食をしましたが、中には吐き出したくなるようなものもあつて、拷問に近いような苦行でした。

一回聞いたら忘れない親しみやすいネーミングで、皆さんに永く愛されてほしい、また、「いちご界の「ど真ん中」にいるような存在になって欲しい」という願いを込めて名付けました。

**伊東さん** そうですね、味は見ただけじゃ分からないですからね。

生まれながらにいちご栽培をみて育ってきたため、おおよそ見た目で美味しいいちごかどうか分かるんです。なので、食味調査をしているときは、明らかに美味くない試作品を食べるのが辛かったですね。それを何個も何個も続けて食べるのは地獄でした。



いとう かつあき  
伊東 克明さん  
平成8年佐賀大学農学部応用生物科学卒業。  
現在、JAさが園芸部園芸振興課に勤務

**西さん** 佐賀県農業試験研究センターに勤務していた頃は、味の客観的な評価ができないかなと考え、食味センサー（味認識装置）を試したりもしました。味の評価って本当に難しいですね。

7年かけて生まれた「いちごさん」のキャッチフレーズは「眺めてうっとり、かじって甘い」。ブランドロゴは凛とした美しい女性、美味しさへの誇りと自信を表したのですが、正直「いちごさん」というネーミングには賛否両論ありました。ただ、子どもからお年寄りまで、

かなり苦労されたことがよくわかりました。販売されてどれくらいになりましたか？

**宮崎学長** かなり苦労されたことがよくわかりました。販売されてどれくらいになりましたか？

**伊東さん** 昨年10月にデビューして、初出荷は11月15日、JAの季楽で初出荷式をさせていただきました。12月末から1月にかけて首都圏など各地で販売促進のイベントを開催し、山口佐賀県知事がPRのためにトップセールスを行ったこともあります。

**宮崎学長** 売れ行きはどうなんでしょうか。どんな戦略で販売されているんですか？

**伊東さん** 非常に好評で、もっと出荷量が増やせるように、栽培面積を拡大する必要があります。戦略としては、首都圏で「いちごさん」の名前を読んでもらうことが一番宣伝になるので、首都圏への出荷を増やしている状況です。

**宮崎学長** パティシエ攻略といいますが、菓子業界とのつながりは大事ですよ。ケーキが好きの方は有名なパティシエの店に行ってください。そこから「いちごさん」の名前は広がっています。そこから「いちごさん」の名前は広がっています。そこから「いちごさん」の名前は広がっています。保護のために遺伝子解析はすんでいますか？

**西さん** 海外における品種登録は韓国と中国での手続きを進めています。  
**木下さん** 遺伝子解析まではやっていませんが、品種判別の技術開発(DNA鑑定)は始めています。

**宮崎学長** 佐賀大学に持つとすれば遺伝子解析はすぐにはできません。農学部では佐賀海苔の遺伝子解析も今やっているところで、知財化したところのために早く取り組む必要があります。

**木下さん** そういった解析技術については強くないので、ぜひ相談させていたきたいです。

**宮崎学長** 大学に来れば、相談できる恩師がいるということ、佐賀大学の門をたたいた同志がいるというのは、皆さんにとって強みではないでしょうか。

**木下さん** 本当にその



通りで、卒業してからも研究室におじゃまして、先生に教えてもらったり、実験をさせてもらったり、助言もたくさんいただきました。また、今回の「いちごさん」の開発では、それぞれ担当は異なりましたが、一大プロジェクトにこの卒業生3人が一緒に関わることができて嬉しかったし、非常に心強かったです。この結びつき(絆)を育ててくれた佐賀大学に感謝です。

**広報室長** 皆さんは、本学で学んだことや経験がどのように生かされていると思いますか。

**伊東さん** 卒業論文が米の育種についてだったんですが、その年が100年に一度の大干ばつの年で、本当に水がなく、私の研究材料が干からびて枯れる寸前で…。結局、近くの干上がりかけた水路からバケツで水をすくって、一日中かかって田んぼに水をかけたんですが、植物が自然に助けられていることを肌で実感しました。なんとか枯れなかったことで卒業論文を書けたんですが、そういう忍耐力も学べましたね。

**西さん** 指導教員であった穴井先生(植物遺伝育種学研究室)に



にし ゆき  
**西 美友紀さん**

平成14年佐賀大学農学部応用生物科学科卒業。  
平成16年佐賀大学大学院農学研究科修士課程修了(修士課程)。  
現在、佐賀県園芸課野菜担当に勤務。

は、学部から修士までお世話になりました。非常に教育熱心な先生で、研究で成果を出すためには、まずロジックを考えて、そこに至るまでの過程を組み立てて検証を行い、結果からまた次のロジックを考えようといった積み重ねが重要ということを教えてくださいました。  
**木下さん** 実験や卒業論文(修士論文)を通

じて、「あたらしい事を起こすこと」や「あたらしい物を作る」とに対しての「もの考え方」やアプローチの仕方など、「過程(プロセス)から結果(アウトプット)」に至るまでの一連の工程について学ばせていただきました。この経験がとても役立っています。

**宮崎学長** みなさんは農業に関係する仕事に就かれています。今、一番の問題は減少する就農人口をどうするかということ。とくに日本は若者の人口が減っていて、どうすれば若い人を農業に誘導できるかが大学としての大きなテーマともいえます。これについてはどう思われますか。また、どういうことをやるべきか提言などがあれば。  
**西さん** 県としても、若い人、新規就農者をどう取り込むかは切実な問題と考えていま

す。今回の「いちごさん」の開発が、就農者が増える一つの起爆剤になることを期待しています。また、トレーニングファームというものを創設して、若手の方、新規就農者の方が、農業のプロである篤農家の元で技術が学べる仕組みをつくっています。何年か一緒に農業をやってから独り立ちするイメージで、県外からも人を呼び込んで佐賀での就農を増やそうとしているところです。もちろん、佐賀大学のように、若い方が学校で現場を学び、農業に興味を持ってくれると嬉しいですね。何をやるにしてもやっぱり人が大事。人を育てるところがしっかりとしないとダメですね。

**宮崎学長** ただ、本校の農学部でも農業実習は時間的にまだまだ少ない。実は、文部科学省からも農学部の学生にはもっと実習をさせなさいと言われていて、私自身も農業実習はもっと必要だと思っています。昔前は、実際に農業をしている教員も多かったが、今はそういう教員も少なくなっている。学生を指導する教員の皆さんにも、ぜひ頑張りたいいただきたい。

**伊東さん** さきほどトレーニングファームの話が出ましたが、JAささがでもキュウリやトマト、いちご、ほうれん草のトレーニングファームをやっていて、環境の整ったいい施設で研修をされています。これからの施設園芸は、今までの2倍の所得向上や、先端技術を取り入れた省力化に取り組んでいかなければなりません。そうすることで、今まで農業をやったことがない人でも、トレーニングファームで技術を身に付けることで、就農して2年目、3年目で「農業はこれだけ儲かるんだ!」というところを実感していただけたらと思います。

**宮崎学長** 就農人口の減少とともに、担い

手の高齢化や所得の伸び悩みなども農業の課題で、そこには佐賀にあう自動化機械など先端技術が必要だと思っています。農業をやっている人に聞くと、やっぱり草取りロボットが欲しいと。例えるなら稲穂と雑草を区別できる、ロボット掃除機の草取りバージョンですね。そして、田植えや稲刈りロボットも。北海道では無人農業ロボットの開発が進んでいて実用化もされていますが、大きすぎて佐賀では使えない。佐賀の農業にあった自動化が進めば、作業が楽になって、収入も上がれば若者が農業に誘導されるんじゃないでしょうか。

**木下さん** ドローンなどICT機器を活用した病害虫の早期検出技術(スマート農業)や統合環境制御技術、中山間地における除草ロボットの検証など担い手対策のメニュー作りにも最近力は注いでいます。

**宮崎学長** そういう技術はどんどん開発していただきたいし、期待しています。採算性の高い施設園芸には大学も注目していて、研修ハウスを新しく建てるので農学部の人には積極的に取り組んでほしい。たとえば、病院用に低カリウムの野菜をつくるというのもいい。腎臓病の人は生野菜を食べられないけれど、水耕栽培にしてカリウムを抜けば、サラダが食べられるようになる。いろんな可能性が広がっていると思います。

**西さん** 研究センターでは新しい品種や栽培技術の開発をしていますし、園芸課では施設園芸をサポートする仕組み作りを行っています。具体的には、「さが園芸生産888 億円推進事業」を来年度から展開する予定

で佐賀の園芸全体を盛り上げていく取組を行う予定です。

**宮崎学長** 農業県である佐賀のために、COC(センター・オブ・コミュニティ)がミッションである佐賀大学がやるべきことは、一次産業の復興のためにどれだけ貢献できるかということ。そのためには佐賀大学は、もっと知恵を出さなければいけないし、もっと尽力しなければ佐賀大学の存在はあり得ないと思っています。

**木下さん** 施設園芸のハウスを新しく建てられて、大学として農業を地域密着型でやっていく考えは、卒業生ながらとてもうれいすね。さまざまな地域課題の解決に取り組んでいただくのはもちろんのこと、大学にしかできない基礎研究や教育の両輪でやっていただきたいです。

**広報室長** 同じような年代の人が同じ大学で勉強するということは、互いに情報交換ができるし、それにより新しい発想も生まれてくると思います。本校は総合大学ですから、学生時代は人とのネットワークもたくさんつくられたのではないのでしょうか。



宮崎耕治 佐賀大学学長と伊東さん

**西さん** そうですね、所属する研究室だけでなく、他の研究室の友人もいて、今でもつながっています。私が学生の頃、木下さんはもう農業試験研究センターにいらっちゃったんですが、卒業後も大学の研究室に出入りされていたので学生時代から交流はありました。ちなみに学生から見ると、雲の上の先輩というか、伝説の先輩！という感じでした(笑)。伊東さんも同じ研究室の先輩で、新年会にはOBの方も参加されていたので、そこでお会いしていました。

**木下さん** 農学部内だけでなく、他の学部との交流の中で様々な刺激を受け、人的ネットワークも広がりました。総合大学に来て良かったなと思いました。

**伊東さん** 陸上競技部に所属していましたので、他の学部や先輩後輩いろいろな方々と出会え、考えを議論し、自分の未熟さを痛感しながら少しは成長できたかなと思います。

**宮崎学長** 先輩が農業試験研究センターやJAにいて、自分も佐賀の農業に関わる仕事をしたいという学生は絶対います。そして、生産現場で活躍する人もいれば、それを指導する人、流通に携わる人、食品加工の会社に入る人もいます。だからこそ佐賀大学をハブに、人と人がつながるネットワークが、つくれるば必ず強みになります。とくに「いちごさん」など魅力的な作物が、ネットワークの核になることは大いにあるので、こういうプロジェクトをぜひきっかけにしてほしい。そして活躍

するOB、OGと学生たちとのつながりも、どんどんつくって欲しいですね。

**広報室長** 最後に3人の皆さんには、在学中の学生たちにアドバイスを。学長からは3人の皆さんにエールをお願いします。

**西さん** 学生時代に学んだことは、直接的に仕事に結びつかないこともたくさんありますが、考え方や学生時代に出会った人とのつながりは、いつか必ず役に立つと思います。興味があることには、どんどん取り組んでもらいたいと思います。

**木下さん** 佐賀は幕末期から明治維新にかけて、錚々たる人材の輩出ですが、世界に先駆けた科学技術(放射炉、蒸気船、繩編機など)や近代医学を生み出した技術立県です。それを育んだこの佐賀で学べることに誇りと喜びを感じながら、何事にも前向きにチャレンジしてもらいたいと思います。

**伊東さん** 限られた時間の中で得る経験は今後の人生を大きく左右することだと思います。失敗があってもがむしゃらに進むことで、道は切り開けるのだと信じています。とにかく行動すれば何か生まれるはずなので、何があっても最後まで諦めないことが肝心です。ネバーギブアップ！

**宮崎学長** 農業は、産業のなかでも夢がある職業だと思っています。食糧生産に携わる仕事ができるということは、本当にうらやましいくらいです。皆さん、これからも頑張ってください。

進行/宮脇 博巳 広報室長

# 佐賀大学美術館 開館5周年

佐賀大学の教育、研究成果の発表の場、地域の皆様との交流の場として



佐賀大学美術館 館長 松岡 昌昭  
あき 昌昭  
ご 藤 昌昭

地域の皆様との交流の場として

1200名の教職員が在籍しています。

大学統合の象徴である佐賀大学美術館では芸術分野に限らず、総合大学が生み出す様々な研究成果を公開するための企画展を開催しています。

医学部では近代医学の黎明期から現代の先端医療までの医療の進歩を理解してもらうために、歴史的資料や医療機器を実際に展示しました。

理工学部では都市工学科の卒業生による建築模型の作品展示を毎年行っていますし、教育学部と全学教育機構が共同で電腦芸術展を開催しています。

経済学部は芸術と経済展を開催してアートとお金の関係について興味深い展示を行いました。

佐賀大学美術館は、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年を記念して平成25年10月に開館しました。国立総合大学附属美術館は全国的にも稀有な存在です。佐賀大学美術館は、地域に開かれた大学のシンボルであり、大学の魅力を発信する拠点となることを目標としています。

幕末の佐賀は科学技術の分野において先進地域であり、明治維新後の我が国の発展を牽引していました。芸術の分野においても、江戸時代に鍋島藩の庇護の下で発展した工芸によって意匠と技術が培われ、明治期には日本を代表する佐賀出身の芸術家が多く誕生しました。

そのような歴史と伝統の中で、佐賀大学は「知の拠点」としての役割を果たすべく、教育と研究に邁進しています。現在、佐賀大学は教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部の6学部から構成されており、7000名の学生と



佐賀の美術教師たち—地方画壇の成立と美術教育者(平成28年度)



農学部では農場で生産した米を使って学生が醸造した清酒のお披露目を関係者やマスコミに向けて行っています。

文化庁の支援を受けての美術館独自の展覧会も毎年行っています。平成28年度は、「佐賀の美術教師たち—地方画壇の成立と美術教育者」を開催しました。昭和28年、佐賀大学に設置された特設美術科で教鞭をとった教員の作品を中心に、明治以降の佐賀における美術教育の歴史、県内学校の美術教師たちの足跡を

「佐賀の美術教師たち—地方画壇の成立と美術教育者」を開催しました。昭和28年、佐賀大学に設置された特設美術科で教鞭をとった教員の作品を中心に、明治以降の佐賀における美術教育の歴史、県内学校の美術教師たちの足跡を

「佐賀の美術教師たち—地方画壇の成立と美術教育者」を開催しました。昭和28年、佐賀大学に設置された特設美術科で教鞭をとった教員の作品を中心に、明治以降の佐賀における美術教育の歴史、県内学校の美術教師たちの足跡を



佐賀大学美術館年表

( )は主催学部等 \*は以降毎年度開催

年度	主なできごと	主な展覧会
平成25年度	平成25年10月2日 一般公開開始	●平成25年10月2日 ～平成26年2月9日 開館記念特別展  「だんだんまるまるようこそ! だんごむしワールドへ!」
平成26年度	平成26年10月24日 入館者5万人達成  平成27年1月22日 第18回佐賀市景観賞 表彰式    日本フィル・金管五重奏 プロムナードコンサート	●平成26年7月25日～8月24日 芸術と経済(経済) ●平成26年12月13日～平成27年1月12日 医学のあけぼのから先端医療まで(医) ●平成27年3月5日 ～3月18日 電腦芸術展(全学教育)* ●平成27年3月10日 ～3月15日 卒業書作展(文教) ●平成27年3月18日 ～3月27日 卒業制作展(理工)*  デッサンの前と後ろ 美術・工芸の授業風景
平成27年度	平成28年2月19日 入館者10万人達成   アカベラサークルに よるライブ	●平成27年8月28日～9月27日 鍋島織通 綿-Menの 織りなす ハーモニー  鍋島織通
平成28年度	平成28年4月1日 教育学部、 芸術地域デザイン学部 学校教育研究科、 地域デザイン研究科 設置	●平成28年3月21日～5月8日 芸術地域デザイン学部開設記念展  芸術表現・地域デザイン基礎 成果発表展 ●平成28年5月20日～7月10日 佐賀の美術教師たち
平成29年度	平成29年5月24日 入館者15万人達成	●平成29年8月24日～10月9日 佐賀の染色文化  佐賀の染色文化
平成30年度	平成30年12月9日 入館者20万人達成	●平成31年1月4日～2月9日 佐賀藩十代藩主鍋島直正展  佐賀藩十代藩主 鍋島直正展

迎える展覧会でした。  
平成29年度は、「佐賀の染色文化―鈴木照次・滋人から城秀男と佐賀県染織作家協会の今」を開催しました。木版摺更紗を復元した鈴木照治とそれを発展させた重要無形文化財保持者である滋人父子の作品、佐賀大学染色教室歴代教授と教え子の作品、そして佐賀県で活躍する染織作家の作品を展示しました。  
平成30年度は「佐賀藩十代藩主鍋島直正展」を開催しました。昭和19年に失われた直正像の再建にあたり、佐賀大学芸術地域デザイン学部の徳安和博教授が制作を担当



佐賀の染色文化―鈴木照次・滋人から城秀男と佐賀県染織作家協会の今(平成29年度)

したことから、徳安教授が制作のために収集した資料や、現存している模型とともに、約4メートルの直正像の制作過程を詳細に紹介しました。併せて佐賀大学で行っている佐賀藩や鍋島家に関する研究成果を展示



佐賀藩十代藩主鍋島直正展(平成30年度)

しました。  
佐賀大学美術館の展示、運営は地元の方々のご協力を得て実現できるものであり、これまでの御支援に感謝するとともに、今後も地域の文化振興に貢献していきたいと考えています。



# 夢を掴んだ先輩たち

平成29年度の卒業生・修了生の就職率は、全体で**98.6%**(5月1日現在)となっていて、近年は高い値をキープしています。  
社会へ大きく羽ばたいていったOB・OGのメッセージをご紹介します!

## 厳しい就職戦線を勝ち抜いた先輩からのメッセージ



日本デパートネット株式会社  
宮本 康平  
経済学部卒業

**Q** 今の職場に入ったきっかけは?

就職活動を始めた当初は希望の業種や職種は特になかった。そこで、あちこち色々な企業の選考を受けていました。その中で二次・最終選考に残ることのできた企業の多くが物流関係でした。そこから物流関係に絞って選び、中でも条件や雰囲気が高く、また「やったものが報われる」会社だと聞いたことも決め手となり弊社を選びました。

**Q** 現在の仕事について教えてください。

ニッポンハムグループのハム・ソーセージや加工食品を扱う冷蔵・冷凍の物流センターで現場業務についています。発注を受けた商品を倉庫から取り出し、出荷に向けて検品や店舗ごとの仕分けの作業などを行っています。日に日にできる仕事が増えることを実感できやりのいを感じると同時に、そうした努力が認められ、上司から新しい業務を任せられたときはうれい

**Q** 学生時代の経験で役立ったことがあれば教えてください。

アルバイトとサークルです。この二つを通じてさまざまな人間関係を経験することができました。会社では年齢や性別だけでなく、立場や考え方が違う様々な人たちと一緒に仕事をしなければいけないため、アルバイトやサークルでコミュニケーションに苦労した経験が役立つと思います。

**Q** 学生時代にこれを学んでおけばよかったと思うことがあれば教えてください。

パソコンです。ワードとエクセルは入社してから使う機会がとて多いですが、学生までほとんど触れないで生きてきたのでとても苦労しています。

**Q** 新社会人としてこれからの目標を教えてください。

しっかりと人間関係を築くことです。何をするにも周りの人との協力が必要だと思うので、まずは多くの繋がりを作ってきたいと考えています。

**Q** 後輩へのメッセージをお願いします。

少しでも興味のあることは躊躇せずにやってみてください。自由に使える時間がかくたくさんあるのが学生の特権です。社会人になるとやりたくてもやれないことだらけです。後悔の残らないように過ごしてください。



丸大食品株式会社  
藤川 郁美  
農学研究科修了

**Q** 今の職場に入ったきっかけは?

「食」は日々の生活と切り離せない身近な存在で、食品会社は生活を支える大切な役割を担っています。私もそんな業界に入り、人々の生活を支えたいという想いが根本にありました。中でも丸大食品は「もの作りは人作り」と考え、社員が成長し活躍できる環境が整っており、若手のうちから様々な経験を積むことができるところが魅力でした。

**Q** 新社会人としてこれからの目標を教えてください。

調理加工食品部門で商品開発を行っています。美味しさ以外にも見た目、食感、香りなど様々な検討課題があり商品化に至るまでは想像以上に大変です。ですが店頭を担当商

**Q** 学生時代の経験で役立ったことがあれば教えてください。

研究を通して「課題を自ら見つけ、解決に向け自らアプローチする」という経験を繰り返し積みましました。この経験は自分の考えを持ち能動的に行動しようという今の働く姿勢につながっています。

**Q** 学生時代にこれを学んでおけばよかったと思うことがあれば教えてください。

簿記、食品に関わる資格などです。

**Q** 後輩へのメッセージをお願いします。

何をすべきかではなく、何をしたいかを考えてみてください。学生生活は就職に向けての準備期間です。勿論楽しむことも忘れずに！そして壁を作らず興味がないことにも目を向けてみてください。視野が広がりますよ!





佐賀大学医学部附属病院  
(所属: 卒後臨床研修センター)

藤田 真衣  
医学部卒業

**Q** 今の職場に入ったきっかけは?

学生時代から熱心に指導して下さった先生方ののもとで、医師としての基礎を築きたいと思ったからです。

**Q** 現在の仕事について教えてください。

現在は研修医として様々な診療科を回っています。研修が始まって約1年が経ちますが毎日学習の連続で、充実した日々を送っています。

**Q** 学生時代の経験で役立ったことがあれば教えてください。

私は学生時代に2回の短期留学をしました。苦労もたくさんありましたが、失敗を恐れずに何事にも挑戦する姿勢を学ぶことができました。

**Q** 学生時代にこれを読んでおけばよかった...と思ったことがあれば教えてください。

社会人になると限られ

た時間の中で多くの業務をこなす必要があります。

学生時代も勉強や部活動、アルバイトなど忙しいと思いますが、物事の重要度や優先順位を意識して、複数のことを並行して行うという経験は社会人になつてとても役に立つと思います。

**Q** 新社会人としてこれからの目標を教えてください。

患者さんの疾患や背景は様々ですが、二人一人に寄り添い、患者さんが元気になるための力を歩んでいくための力になりたいと思います。また多くの方々の支えがあつて今の私があるので、皆さんに恩返しができるよう、毎日を大切に頑張っていきたいです。

**Q** 後輩へのメッセージをお願いします。

勉強ももちろん大切ですが、大学時代にしかできない経験もたくさんあります。それらは今後の人生に必ず生きてくるので、自分が本気でやりたいことには積極的に挑戦してほしいです。

**Q** 今の職場に入ったきっかけは?

家族が教職員であつたため、私も教職の仕事に就こうと思いました。学校現場の話(例えば、不登校傾向の児童に対して、学級経営を見直して取り組んでみたら、少しずつ登校できるようになった話)を聞いているうちに、憧れを抱くようになりました。

**Q** 現在の仕事について教えてください。

自分の指導により、子どもの変化がすぐに現れ、自分の教材研究による努力が実つたときにやりがいを感じます。

**Q** 学生時代の経験で役立ったことがあれば教えてください。

私は小学校教諭免許に加えて、高校書道の免許を取得しました。そのため、小学校課程書写指導において、硬筆や毛筆の苦手な児童に対して、自信を持って指導することができています。それに伴

い、子どもが丁寧な字を書けたと思うときの充実した顔を見るのがとても嬉しいです。

**Q** 学生時代にこれを読んでおけばよかった...と思ったことがあれば教えてください。

これからは小学校に外国語活動が正式に導入されます。ALTと協力し合つて、現在子どもたちに外国語を指導していますが、学生時代にもつと英語を勉強しておけばよかったと思います。

**Q** 新社会人としてこれからの目標を教えてください。

現場の先輩方のこれまでの経験を参考に、大学で学んだことを自分なりに工夫して改善しながら現場に生かしていきたい、子どもたちの人格形成に役立てたいです。

**Q** 後輩へのメッセージをお願いします。

憧れの仕事に就いたとはいえ、実際に現場に立つてからは、毎日悩みながら職務を行つています。仕事に追われながらですので、自分の最初の目標を見失うこともありませんが、それよりも毎日の子どもたちの素敵な笑顔を見るのが今の私の最高の喜びです。どうぞみなさん、一杯充実した大学生活を送りながら自分の目標を実現させてください。教職の現場からエールを送ります。



小城市立桜岡小学校 教諭

小宮 理子  
教育学部卒業

## 就職活動スケジュール

2019年度(2020年3月)卒業・修了予定者



# 大切な仲間と全力で駆け抜けた6年間

佐賀大学医学部陸上競技部



**私** たちは、佐賀大学医学部陸上競技部で長距離種目を専門としている6年生です。

私たちの部活は、部員40人程で、毎週水・土曜日の週2回、佐賀県総合運動場で練習を行っています。毎年4月の九州・山口医科学生体育大会(九山)、8月の西日本医科学生体育大会(西医体)、12月の島原学生駅伝での活躍を目標としています。

通常、医学部の6年生は、夏の西医体で部活動を引退し、10-11月の卒業試験、2月の医師国家試験に向けて勉学に励みます。私たちも、西医体で引退することを一度は考

えましたが、今までの島原で納得のいく走りが出ていなかったこと、そして、5年ぶりに入部してくれた男子長距離の新入部員達に、少しでも多くのことを伝えたいという思いから、3人で話し合い、島原駅伝まで現役を続行することを決めました。

医学部では試験が多いため、日々勉強をする必要があります。学生ですので勉学に手を抜くことはできませんが、陸上競技は継続して練習をしないと、すぐに体が思うように動かなくなります。したがって、試験前でも走る時間を作るように、娯楽の時間を削り、毎日少しずつでも自己学習を行ってきました。

島原駅伝では私たちは1区、4区、7区と大切な区間を任せて頂きました。レース中は苦しく、諦めそうになる場面もありましたが、3人で励まし、競い合いながら走ってきたことを思い出すと、自然と次の1歩を出すことができました。結果としては、チームで決めていた「最後まで襷を繋ぎきる」という目標が達成でき、満足しています。

国家試験を終え今はほっとしているところです。長距離は練習も



医学部医学科6年 医学部医学科6年 医学部医学科6年  
田中 一成 村上 陽亮 友田 貴博

試合もとてもきついものです。しかし、私たちは走ることが大好きですし、頑張った分だけ結果が得られる達成感や、仲間と目標に向かって練習に取り組めたのはかけがえのない思い出です。そして、勉強に部活に熱中したことは、今後の人生の糧になると信じています。



# 学び手との対話による豊かな教科教育の構想

「国語科教育の研究と高大接続プロジェクト「教師へのとびら」を通して」

## 国語科教育の研究

時代や社会が求める学力の変化に応じて、学校の授業のあり方も少しずつ変化していきます。これまでの国語の授業というと、教師が教科書片手に音読したり質問したりして進めるイメージがあるかもしれませんが、しかし現在では、作品について仲間と語り合うことを通じて自分の考えを深めていくかたちが増えていきます。

地域貢献の一環として、研究室主催の「読書会」を開催しています。会場は佐賀大学本庄キャンパスや伊万里市民図書館で、2か月に1回程度です。「走れメロス」「ころ」といった有名な教科書教材から、「泣いた赤おに」「スイミー」



伊万里市民図書館での読書会。  
このときの課題本は「君たちはどう生きるか」



これまでの成果をまとめた本が東京書籍から刊行されました(2018年9月)。Amazonなどで購入できます。

といった童話や絵本まで、さまざまな本を取り上げます。参加者からは毎回、「他

の参加者の読み方に刺激を受けた」「二人で読むだけでは気づかない発見があった」という感想をいただきます(一般の方も参加できます)。「佐賀大学読書会」で検索してみてください。新しい国語の授業のかたちを体験することができます。

「読書会」というのは本を読んで語り合う会のこと。「ブッククラブ」とも呼ばれます。読む力を向上させるには他の人と話し合う過程が重要であるということは、以前から分かっています。それを国語の授業向けに実践化したものが「読書会(ブッククラブ)なのです。時代や社会の変化に応じながら、児



教職員対象の授業研修会も実施しています。写真は中原小学校での研修会

童・生徒の国語学力を効果的に育成する授業内容や授業方法を明らかにすることが、私が専門とする国語科教育研究の仕事です。

## 教員養成分野における高大接続の研究



「教師へのとびら」の一コマ。他校の高校生、現場の先生、大学生とともに話し合います。

最近、佐賀大学に入学した学生から「高校時代に佐賀大学の「教師へのとびら」に参加して、教師を目指すことを決意しました」という声をよく聞くようになりました。「教師へのとびら」は佐賀大学の継続・育成型高大連携事業「とびらプロジェクト」の一つで、「高校3年間と大学4年間の計7年間で未来の教師を育てる」をコンセプトとしています(詳細は佐賀大学アドミッションセンターのホームページを参照してください)。その開発・実施に携わっています。

「教師へのとびら」は高校生のための進学応援プロジェクトですが、事業を継続しているうちに、大学生や現職教員



教育学部 准教授  
たぬい 田 徹

のための学修・研修の場としても有効であるということが分かってきました。プロジェクトに参加した大学生や現職の先生方は「高校生の新鮮な声を聞いて自分の教育観を見直すことができた」と話してくれました。つまり、教師をめざす高校生との対話が、教職課程の大学生の学修や現職教員の研修に役立っているのです。

「教師へのとびら」は2019年度で開始6年目を迎えます。今後は、「教師へのとびら」というフィールドを活用した新しい研究プロジェクトを立ち上げられたらいいなと考えています。児童・生徒にとって学びがいのある授業とは何か。高校生の考えと大学生の考えを接続することで新しい発想が生まれるのではないかと期待しています。



「教師へのとびら」の一コマ。  
毎回、高校生100名前後の参加があります。

# 腰痛を軽減する装具の開発

## 「当事者研究としての取り組み」

大学教員に限らず、座りっぱなしの職業では、腰痛に苦しめられることがあります。椎間板ヘルニアを患っている私は、ベッドの上で寝たまま仕事をしたことが何度もあります(図1)。

2010年に佐賀大学に赴任してからも、腰痛用のイス(図2・図3)で仕事をしていましたが、出張の際の飛行機や新幹線は非常につらいです。



図3:パソコン作業用のイス



図2:打合せ用のイス



図1:腰痛時の仕事風景

なんとか腰(椎間板や骨盤)に負担をかけずに座る方法はないものか、無重力になって腰を浮かせられないかと考え続けて生まれたのが、「腰痛軽減装具・フワット(図4)」です。腰につけるコルセットではなく、ろっ骨につけるコルセットが、上半身をつるしてくれる装具です。腰やおしりが少し浮かぶので「Floating Waist(FWAT:フワット)」という名前にしました。



図4:腰痛軽減装具:フワット

装着してレントゲン撮影すると、腰椎が引っ張られてまっすぐ伸びています(図5)。腰にかかる負荷は3分の1(図6)に、

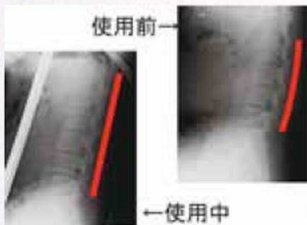


図5:腰椎の状態

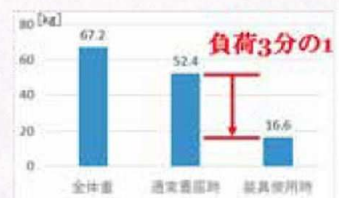


図6:腰にかかる負荷

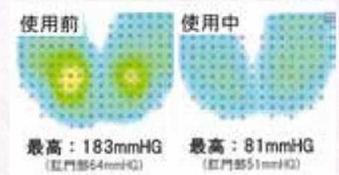


図7:座圧分布の変化

おしりにかかる負荷も半分以下(図7)に激減します。この装具は、福祉機器コンテスト2018で優秀賞を受賞し、10月に東京ビッグサイトで表彰(図8「一」)され、新聞でも記事にさせていただきました。私自身も、会議の時や、飛行機や新幹線での出張時には装着(図9)していますが、出張翌日の腰の痛みがなくなり、とても助かっています。腰痛の当事者として、他にも腰痛に



図8:表彰式の様子(左から安田様、中山、山城君)



図9:装着時の様子



理工学部 准教授  
中山 功一

苦しんでいる人にクラウドファンディングで届けられるよう、フワット紹介ページ<sup>[2]</sup>にて、情報をお知らせします。日本から腰痛の苦しみを少しでも減らせるよう、腰痛でお困りの方に、ご紹介いただければ幸いです。

「一」日本リハビリテーション工学協会  
<http://www.resja.or.jp/contest/data/2018/index.html>  
 「二」フワット紹介ページ(4月公開予定)  
<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/kanakayama/FWAT/>

# ライブブライリースタッフおすすめ本展示

佐賀大学附属図書館は本庄キャンパスの本館、鍋島キャンパスの医学分館を結んで本学の学生教職員の方々の教育研究活動のお手伝いをしています。地域の公共図書館とは異なる蔵書のラインナップや閲覧室の雰囲気も、大学図書館ならではのものです。

本学の教育研究支援施設としての附属図書館ですが、校友のみならず、地域の市民のみならずにも規定に基づきご利用いただけることはご存知でしょうか。

本館入口の入館ゲートを通ると、会話もできる1階アクティブエリア(リーニングコモンズ)です。学生さんたちがそこにあるソファ(オランダのデザイナー、リチャード・ハツブンのチェアもあります)やテーブルで議論や調べものをしています。おいでいただきましたら、1階の階段前丸テーブル、そしてレファレンスカウンター周辺の新着図書コーナーなどにぜひご注目ください。



佐賀大学附属図書館 館長

山崎 功

日頃から図書館を訪れる利用者として接しているライブラリースタッフは、その声に耳を傾け、古今東西・時事的な関心など本にまつわる様々な情報を可能な限り集めることに努めています。このコーナーは、



祝ノーベル賞展示

とりわけ学生さん向けに読んでほしい、お薦めしたい本を手作りで紹介するものとツイッターと連動して



たい本の紹介など様々な発信を行っています。新年にはライブブライリースタッフおすすめ

の「本の福袋」、中身は借りてからのお楽しみ、ちよっとしたお年玉つきのミニ企画などを用意しています。

また附属図書館は本学教育学部附属中学校や佐賀市内外の中・高・大学生のみさんの職場体験・図書館実習の場としても活用いただいています。デジタル化の



福袋

大きな流れの中で、昨年の夏休みに本館のカウンター前に登場

した中学生手作りのPOPは、身近な謎や出来事をもとめた本についてアピールするものでした。「読みたい心に



実習生によるPOP

火をつけろ！」とばかりに、生徒さんの思いのこもったおすすめ本のミニ紹介でした。

Society 5.0の到来により、人間の能力を超えたAI(人工知能)と出会うことで人間にはどのような可能性が生まれるのか。図書の世界でも、電子書籍や電子ジャーナルが紙媒体にとって代わろうとしています。「紙の本のない図書館」の時代、膨大なデータの海から多様な利用

者ニーズに適ったものを瞬時に釣り上げ、紹介することはAIが最も得意とするところといわれます。この技術を人間の可能性のために使わないのはもったいないことです。

その一方で、憂い、屈託、迷いやためらいといった心の揺らぎは、豊潤な哲学・思想を生んだ人間ならではのものだと思えます。近年アナログレコードやカセットテープが見直されています。どんな写真が撮れたのか現像するまでわからないアナログインスタントカメラが若い人たちの間で一定の人気を得ています。気まぐれなひとの心の機微に気づき、学生と一緒に悩んで本探しを手伝ってくれるのは、自身のライブラリストアッフだと思えます。1冊のアナログな紙の本をめぐる人間のまどろっこしい逡巡を、AIは羨ましがりに違いないかもしれません。そんな1冊を探すお手伝いをしている附属図書館においでください。

# 陶磁器・セラミックスを通じた地域貢献へ

## 肥前セラミック研究センター

田は1616年に日本で初めて磁器が生産され世界へ輸出していたことで有名です。また、明治時代になると、この磁器製造技術を基に有田の香蘭社が送電設備材料である碍子(がいし)の生産に日本で初めて成功し、さらに様々な工業用磁器やセラミックスが生産されるようになっていったのです。そして2016年、このような歴史的背景から伊万里、有田、唐津、武雄、嬉野、波佐見、三河内等を包含する肥前地域が「肥前窯業圏」として日本遺産に認定されました。

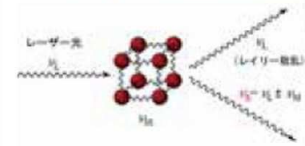
佐賀大学は、このように世界的な歴史文

化を持つ有田を中心とした肥前窯業圏への地域貢献を目指し、平成29年4月、有田キャンパスに肥前セラミック研究センターを開設しました。現在、地元の研究機関、企業・団体、自治体などと協働し、陶磁器やセラミックスの「科学」、「芸術」、「経済」に関する研究や活動を始めています。

### 【研究活動】

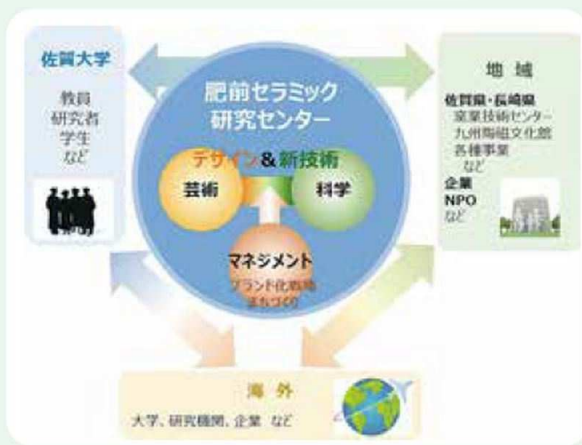
#### ●先端技術で古陶磁分析!

有田の古陶磁がいつ、どこで、どんな原料を使って作られたのかという考古学的な調査研究を行うため、地元博物館などと連携し現代の先端技術を用いた解析に挑戦しています。貴重な古陶磁にダメージを与えない



ラマン光による古陶磁の分析

九州北西部の佐賀県から長崎県にまたがる地域を近年まで「肥前」と呼んでいました。昔から自然が豊かで陶石、陶土、燃料、水などの陶磁器を営む条件が揃っていたため、中国から朝鮮半島を通じて伝来したとされるやきものの生産が盛んに行われ始めた地域で、とくに有



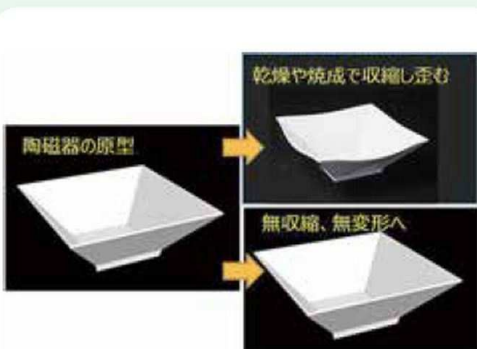
いようにラマン分光法やシンクログロトロン光での分析法を用いています。遠い昔のやきものの歴史が再発見されるといいますね。

#### ●新しい陶磁器を開発中!?

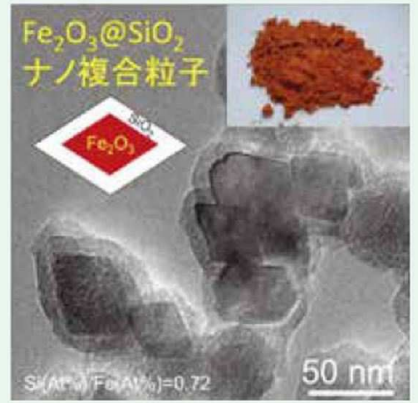
やきものやセラミックスは成形、乾燥、焼成するときに寸法が大きく縮むため割れたり歪んだりすることがあり、どんな形でも作れるわけではありません。今年度から、ほとんど縮まない陶磁器原料や製造技術の研究に地元研究機関と共同で着手し、これまでにない新しい形状の製品創出を目指しています。その他にも、企業団体とも共同研究を開始し、1日で効率よく加熱できる陶磁器、原料精製技術、顔料、成形技術などの新しい陶磁器研究を行っています。



肥前セラミック研究センターセンター長  
いちのせ ひろあき  
一ノ瀬 弘道



乾燥や焼成で収縮しない陶磁器の概念図



耐熱性の新しい赤絵顔料

● **新原料・新プロセスで  
新しいデザイン・アート表現へ！**

新しい陶磁器原料やコンピュータによる3D製造技術を用いると、これまでにできなかったデザインや形状を作ることができるようになります。今年度から、そのような新原料や技術を用いたデザイン・アート研究を地元研究機関と共同で開始し、海外との有田焼商品デザイン共同製作も行っています。

● **地域ブランディングや  
まちづくりの研究を開始！**

生産額が最盛期の数分の一に減った有田焼をはじめとするやきもの業界の地域活性化を目指し、経済学的な切り口で肥前窯業圏のやきもの産業を分析した地域ブランディングの研究を開始しました。さらに、肥前窯業圏のまちづくりに関する研究なども行っています。

【**地域協働・教育活動**】

● **外国アーティストや  
地元組合との交流支援！**

レジデンスイン有田で来日したアーティストを有田キャンパスに招いて行う大学生向けワークショップや有田陶交会との商品開発協働などを行っています。参加した学生は実際のアーティストや窯元と触れ合っ



有田陶交会と学生の共同デザイン開発(2月)



海外アーティストによる学生ワークショップ(7月)

● **佐大生の地元企業教育・  
中学生教育！**

佐賀県や九州内には、知名度以上にすごい実績の窯業関連企業が数多くあります。

学生の企業訪問や企業インターンシップを推進し、学生が地元企業を知る機会を支援して、地元就職に繋がる教育を行っています。また、ダイバーシティ推進室と共同で地元中学生などのサイエンス教育にも協力しています。

● **将来の陶磁器産業について  
地域と共に考える!?**

有田焼創業400年から2年が過ぎ、有田焼は今後どうすべきか、地域はどうあるべきかなどについて、人間国宝の今泉今



中学生のリケジョサイエンス教育  
(ダイバーシティ推進室共催、8月)



学生の地元企業訪問(1月)

右衛門先生をはじめ様々な分野の講師を招いた講演会やシンポジウムを開催し、学生や地域の皆さんと共に考える機会を提供しています。

【**国際交流**】

● **韓国窯業技術院(KICET)と  
研究協力協定を締結！**

陶磁器サイエンスを中心とした研究交流を目的とし、1月に韓国の国立研究所である韓国窯業技術院(KICET)と研究協力協定を締結しました。今後、国際シンポジウム開催などの交流を進め、中国を含む東アジアにおける連携をさらに深めていく予定です。国内でも連携協定、共同研究契約を増やし連携の輪を広げるところです。

その他、技術相談なども行っています。ご連絡は以下のサイトをご覧ください。  
肥前セラミック研究センターホームページ  
<http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp>



有田の地域活性化シンポジウム(11月)

## ほびろほびろ



代表

まつ なが ゆり か  
**松永 百合香**

医学部看護学科3年



私たちほびろほびろは、佐賀大学医学部看護学科の約20名で活動しています。「ほびろほびろ」とは佐賀弁で「羽を広げている様子」という意味で、この言葉の通りそれぞれのペースに合わせてのんびりと活動しています。

主な活動は長期休業中に行っているスキンケア教室です。この取り組みは、アトピーに悩む子どもやお母さんを少しでも減らしたいという思いから始まりました。公民館や保育園に向き、未就園児とそのお母さん方に向けて行っています。赤ちゃんの肌の性質、スキンケアの方法、赤ちゃん特有の皮膚トラブルについてのお話と、実際に洗い方や保湿方法の実践を組み合わせながら伝えています。どのようにすればわかりやすく伝えられるのか、忙しいお母さんでも簡単に取り組めるような工夫はできないか、日々考えながら行っています。

その他にも障害児を対象とした保育ボランティアとして、障害児の家族会のサポートをしたり、小学生を対象にした公民館での学習支援で、夏休みの課題を手伝ったりと多岐にわたる活動をしています。

様々な活動を通して人前で話すスキルの向上や、様々な年代の方と接する機会をもつことができています。部員は看護師、助産師、保健師を目指す学生なので、ほびろほびろでの活動は、将来それぞれの看護に生かすことができる活動でもあると考えています。また、ほびろほびろは上記の活動以外にもそれぞれが挑戦してみたいと思った活動を積極的に取り組める部活です。興味がある方はぜひ一緒に活動しましょう。みなさんとお会い出来るのを楽しみにしています。



## アカペラサークルScore!!



部長

さ さ き ひで かず  
**佐々木 秀一**

経済学部2年



私たちアカペラサークルScore!!は現在部員74人で活動しています。アカペラは楽器を一切使わずメロディやベース、ドラムも全て人の声で作ります。

毎週金曜日にある部会では音響機材を使って練習し、先輩からアドバイスをもらうなど日々上達するための練習を続けています。基本的には6人で1つのグループを組み各自で練習をしているため、平日の昼休みや放課後などほぼ毎日部員が練習している声が聞こえてきます。部員たちの1つの目標として、大学祭でのLIVEやSummer LIVEなどがあります。

大学祭では、1年の集大成として多くのグループが出演し毎年大学内のメインストリート付近でLIVEを行っています。Summer LIVEは今年からの新しい試みで大学祭でのLIVEと同じ規模のLIVEを8月末に行う予定です。情報等はSNSに随時掲載しますので、8月付近になりましたらチェックをお忘れなく！他にも地域のイベントに出演し歌うことも多くあり、サガテレビさんの春フェスのブースで歌わせていただきました。他にも赤松小学校で行われた夏祭りへの出演や知人のお寺でのLIVEなども行っています。

サークルとしては6年目とまだまだ未熟ですが、これからのアカペラサークルScore!!の活動を応援していただけると幸いです！活動やLIVEの情報等はTwitterやInstagramなどのSNSで掲載しておりますので、ぜひチェックのほどよろしくをお願いします！

【Twitter】 [https://twitter.com/score\\_official\\_](https://twitter.com/score_official_)

【Instagram】 [https://www.instagram.com/\\_score\\_official/](https://www.instagram.com/_score_official/)







佐賀大学公式  
マスコットキャラクター  
カッチーくん

# 悠々知酔



ゆうゆうちすい

「悠々知酔」とは、悠々と酒を飲みながら知の探究に酔い、桃源郷のような雲の上でゆっくりとのんびり飲む姿をイメージしています。

## 基山商店 × 佐賀大学



〈仕込み〉

佐賀大学では、地域貢献の一環として、農学部附属アグリ創生教育研究センターで収穫した米「ひのひかり」と農学部応用微生物学研究室で分離・育種した「清酒酵母」や「乳酸菌」を使用し、県内の酒造メーカーと連携して佐賀大学オリジナルの清酒「悠々知酔」を製造しています。



〈完成披露会〉



〈上槽(搾り)〉

今回は、合資会社基山商店のご協力のもと、酒質(味・香り等々)の決定、洗米・麴造り・仕込み・上槽(搾り)など、全ての工程に農学部応用微生物学研究室の学生が参加し、製造しました。

佐賀大学生協、イオン佐賀大和店、イオン大野城店や佐賀市内の酒取扱店などでお買い求めいただけます。ぜひご賞味ください。



〈学生による販売会〉

- 山廃純米おりがらみ生酒(要冷蔵)……………1,450円(税込)
- 純米吟醸おりがらみ生酒(要冷蔵)……………1,650円(税込)
- 山廃純米火入れ酒……………1,450円(税込)
- 純米吟醸火入れ酒……………1,650円(税込)
- 山廃純米生酒(要冷蔵)※イオン九州限定販売……………1,400円(税込)

「悠々知酔」製造の様子がこちらからご覧いただけます!

<https://www.facebook.com/yuyuchisui>

佐賀大学生協 TEL 0952-25-4450

# 佐賀大学校友会は、在学生の海外留学、国際活動や課外活動、ボランティア活動などで頑張っている学生への支援を行っています。

佐賀大学校友会では会員になっていただける方を募集しています。



## 在學生保護者の皆様へ 佐賀大学校友会入会のお願い

平成31年3月吉日

佐賀大学校友会は、在學生がより良いキャンパスライフを過ごすために支援することを目的とする組織です。在學生保護者の皆様、佐賀大学卒業生、教職員、そして佐賀大学に関係のある企業・団体の皆様に会員になっていただき、会費により、在學生の国際交流や海外留学への支援、課外活動への支援及び校友相互の親交を図るための支援等を行っています。

佐賀大学は、學生を大切に、面倒見の良い大学であることを目指しています。本学で学ぶ學生諸君が教養と知識を身につけて社会に飛び立ち、地域で活躍することによって、佐賀大学も発展していくと考えています。そのためには、佐賀大学校友会を通して、在學生の支援を地道に行っていくことが重要であると思います。

平成16年に行われた法人化によって、佐賀大学の経営は自助努力によらなければならなくなっています。本学教職員の努力は勿論のことですが、在學生保護者の皆様方、卒業生の皆様方のご理解とご支援が不可欠です。

佐賀大学校友会の活動についてご理解、ご賛同いただき、校友会にご入会いただきますようお願い申し上げます。また、会員登録されている方におかれましては会費を納入いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

佐賀大学学長 宮崎 耕治  
佐賀大学校友会会長

校友会事業の詳細については、佐賀大学校友会HPに掲載しております。佐賀大学校友会の活動についてご理解、ご賛同いただきご入会いただきますようお願いいたします。

**詳細はこちらでご確認下さい。**

佐賀大学校友会HP

<https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>

### 問い合わせ先

#### 佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1  
国立大学法人佐賀大学 本部1階(総務部総務課広報室内)  
電話 0952-28-8154 FAX 0952-28-8921  
E-mail : koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

# 平成31年度 ● 学年暦

## 前学期

- 4月 1日 ● 前学期始、春季休業(4月7日まで)
- 4月 3日 ● 平成31年度入学式
- 4月 4日 ● オリエンテーション
- 4月 8日 ● 前学期開講日
- 7月31日 ● 前学期定期試験(8月6日まで)
- 8月 7日 ● 夏季休業(9月30日まで)
- 9月25日 ● 平成31年度学位記授与式(9月期)
- 9月30日 ● 前学期終

## 後学期

- 10月 1日 ● 開学記念日、後学期始、後学期開講
- 10月 3日 ● 平成31年度大学院入学式(10月期)
- 12月25日 ● 冬季休業(1月7日まで)
- 2月 7日 ● 後学期定期試験(2月14日まで)
- 3月24日 ● 平成31年度学位記授与式(3月期)
- 3月31日 ● 後学期終

# 佐賀大学基金ご寄附者芳名帳(平成30年8月～平成31年1月現在)

佐賀大学基金へのご協力に、心より御礼申し上げます。ご寄附いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

### 【佐賀大学美術館募金】

阿座上 隆様 北村 博様 下平 格様 竜田 永様 原口庄 塑様 平山 伸様 本多 晃一様  
松代 秀孝様 山口 雅也様 他6名

### 【佐賀大学基金】

阿野 妙子様 安部 信一様 池田 昇様 石井 俊弘様 石橋 彰様 泉 省吾様 市川 敦士様  
市山 郁生様 岩 男 明様 内池 平樹様 江頭 省吾様 江頭 富士男様 江口 正則様 大石 透様  
大坪 敏郎様 小川 茂様 川崎 良文様 北沢 一行様 古賀 久雄様 古賀 光春様 佐藤 典明様  
品川 俊一様 城 顯様 陣内 元明様 末 永邦雄様 杉 信市様 杉原 甫様 副島 正道様  
副島 陽一様 高田 俊行様 武村 玲子様 田代 勇夫様 檀 寛道様 津田 信次様 角田 研三様  
中島 耕助様 中嶋 麗子様 中村 スミエ様 成 富 元様 西河 超英様 橋本 朋雄様 濱岡 克寛様  
原 理夫様 福山 つや子様 藤木 徳實様 古川 貞二郎様 本田 英樹様 松田 信義様 宮上 悦生様  
宮國 榮様 牟田 一弥様 山口 賢治・真理子様 吉田 恵子様 米倉 信義様 他24名

### 【修学支援基金】

秋吉 英治様 飯星 智博様 浦川 加奈子様 浦川 宗久様 江口 秀機様 金子 賢二様 川崎 良文様  
園田 泰正様 武田 英典様 橋本 高宏様 半田 英子様 他9名

【課外活動支援基金(一般)】 林 渉様 【課外活動支援基金(熱気球部)】 長尾 佳宏様 他2名

### 【課外活動支援基金(医学部漕艇部)】

柏田 知美様 唐田 宗一郎様 木村 直也様 竹内 美香様 西村 大幹様 御手洗 永様 雪本 薫平様 他8名

### 【課外活動支援基金(医学部ヨット部)】

川副 博子様 武富 啓起様 中島 啓二様 原 新一郎様  
藤本 徹様

### 【課外活動支援基金(医学部軽音楽部)】

一ノ瀬 文男様 副島 英伸様 他3名

### 【院内保育所事業基金】 1名

■五十音順にて掲載しております。

■お名前の公表をご希望されていない方につきましては、人数のみ掲載しております。万が一お名前が漏れている等の不備やお気付きの点等がございましたら、誠に恐縮ではございますが、佐賀大学基金事務局までご連絡ください。

お問い合わせ先

## 佐賀大学基金事務局 (佐賀大学総務部総務課内)

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118  
E-mail kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp URL http://www.kikin.saga-u.ac.jp

「医学部開講40周年記念事業募金」のご芳名帳につきましては、別途作成予定です。ホームページにも随時掲載の予定です。



## 編集後記

「食」は日々の生活と切り離せないものであるが、東京の人達のなかには麦畑を見たことがない、さらには稲穂も見たこともない人もいる。そう、お金さえあればいつでもコンビニでおにぎりが入ると信じている。実際、日本はこの第1に必要なものを疎かにしてきた。その証拠に日本の農家の高齢化は深刻で、一刻の猶予もできないところまで来てしまった。その課題をどうするか。農学部の穴井教授の元を卒業した木下さん、西さん、伊東さんは佐賀の農業の課題を見出し、そのために極めて品質が良く、従来品より2割増産できる新品種の母「いちごさん」を開発し、農家の問題解決に取り組んでいる。その解決に佐賀大学が貢献できていることに喜びを感じる。

健康は人類永遠の願いである。アフリカの大地で一日中獲物を求めて歩きまわっていた我々の祖先は、姿勢もよく、腰病などなかったかもしれない。しかし、生活様式は生物の適応能力よりはるかに早く変わり、昨今の日本では椅子に座りパソコンのキーボードを打つことで痛みを得ている人が大多数である。そのため座りっぱなしの現代人は腰痛に苦しむことが多いそうである。理工学部の中山准教授は、自らの体験をもとにこの課題に取り組んでおられる。健康人だけの世界ではなく、いろいろな障害を持つ人達がそれぞれの分野で活躍できる世界の到来を希望する。その世界の到来に貢献できる佐賀大学でありたい。

卒業しても佐賀大学の図書館は利用できる。卒業生、在校生もどろんどろん読書をして、豊かな人生を送ってもらいたい。読書を通じ温故知新もできるし、問題解決の糸口を得るかも知れない。歴史ある古い技術であった有田の磁器が近代の送電線絶縁問題を解決したのは、温故知新の良い例であり、痛快である。

これからの人生には急な上り坂、下り坂が待っているかもしれない。佐賀大学で学んだ知識と同窓生たちが互いに励ましあい、あるいは競い合いながら、走ってもらいたい。未来の道を恐れてはいない。

広報室長 宮脇博巳



# 誌上ギャラリー

「佐賀大学 第63回卒業制作展 第25回修了制作展」



文化教育学部 美術・工芸課程 最後の卒業制作展●たくさんの芸術性に優れた人材を輩出してきた文化教育学部美術・工芸課程の最後の卒業制作展が開催されました。その歴史は、平成28年に誕生した「芸術地域デザイン学部」へと受け継がれます。



佐賀大学公式  
マスコット  
キャラクター/  
カッチーくん

今号の表紙/「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」より

制作:芸術地域デザイン学部 徳安和博 教授

中央:鍋島直正像 / 右上:古賀穀堂立像 / 右下:副島種臣座像、大隈重信立像 /

左上:島義勇武像、島義勇像雛型 / 左下:江藤新平立像

本学の情報をスマートフォンで見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。  
スマートフォン用 URL:<http://www.saga-u.ac.jp>

